

自宅で安心して暮らす！「健康・医療・介護」を体験できるモデルルーム

ICTを活用した介護予防や転倒予防、  
 介護する人される人にもやさしい新しい介護・医療の在り方、  
 初期の認知症の方への理解・接し方・対応などを体験できるモデルルームです。



～各お部屋のご紹介～

**転倒予防・介護予防のお部屋** 【大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究所監修】

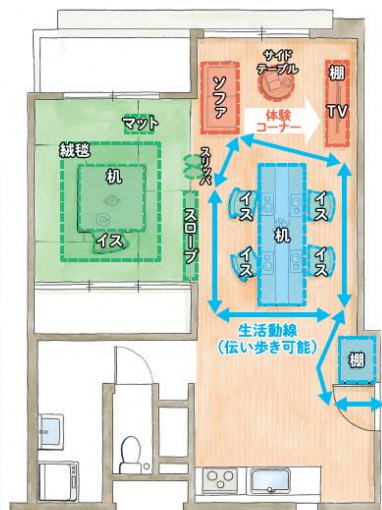
- ・家具の置き方の工夫でできる転倒予防と ICT を活用した介護予防など次世代の住まい方を提案
- ・簡単に手に入る転倒予防グッズを紹介、スマートウォッチを用いた健康状態の可視化の体験も可能

加齢や病気による筋力の低下などにより、高齢者の約20%は、1年に1回以上は転倒するといわれています。  
 “生き生きとした生活を長く”続けることができるよう、ぜひ、ここで「学習」し、ご自宅でお試ください！

**転倒予防グッズのご紹介**  
 転倒予防スリッパ、マットの滑り止め、段差のスロープ、蛍光テープ、人感照明 等  
※実際にご確認できます！ぜひお試しください。

**“転ばない”住まい方の工夫**  
 「住マイルリハビリテーション®」の実践  
 手すり等を設置せずとも、生活動線内を広い歩ける家具配置にすることで、手をつく位置を担保し、つまずきや滑りが起こった際の転倒予防につながります。このモデルルームをご覧いただくだけでも、転倒予防に関する「学習」をしていただけます。

※「住マイルリハビリテーション®」は、公立大学法人大阪の登録商標です。



## 介護・医療のお部屋 【社会医療法人大道会在宅事業部監修】

- ・最新の福祉用具を活用し、介護する側と介護される側両方にやさしいこれからの介護の在り方を提案
- ・お家の人でもできる医療的ケアと専門職による医療・介護ケアの紹介

## 在宅療養を支える福祉用具

介護される方、介護する方、どちらの負担も軽減する、福祉用具をご紹介します。



## 在宅療養で使える医療機器

利用開始には医師や看護師の指導が必要ですが、日常的な使用はご家族の方でも可能です。

### 酸素濃縮器(在宅酸素療法)

肺や心臓疾患のある方が使用します。



- 酸素濃度の変更はスイッチを押すだけで操作が簡単。
- 電子パネルで酸素濃度を確認できる。
- ベッドから離れた場所でも使用可能。

### 人工呼吸器

呼吸が弱くなった方の呼吸を助けます。



- 療養者に合わせて、出し入れする空気量や呼吸ペースの設定が可能。
- 空気の漏れはアラームでお知らせ。
- 内臓バッテリーで停電時も4～6時間以上は使用可能。

### 排痰補助装置

呼吸が弱くなり、痰が自力で出せなくなった時に使用します。



- 普段の呼吸より強く勢いのある呼吸を強制的に行い、咳のような作用で気管や肺にある痰を口元まで排出。
- 強制呼吸は数回だけなので安全。強い苦痛を伴わない。

## 認知症を知るお部屋 【大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究所監修】

- ・認知症や認知症初期の方の安心環境について正しい理解を深めてもらう普及啓発のためのお部屋
- ・初期の認知症の方が安心して生活できるよう暮らし方の工夫などを提案

### 認知症とは？

認知症への理解を深めましょう。

### 認知症=脳の病気

認知症とは、さまざまな原因で脳の機能が衰えることで、記憶や判断力の障害などが起き、日常生活や対人関係に支障が出る状態を言います。

主な認知症の種類とその症状や特徴	認知症予防に必要なこと
<b>アルツハイマー型</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□最近の出来事を覚えることが多い</li> <li>□昔の出来事は覚えてることが多い</li> <li>□新しいことを覚えることは減る。</li> <li>□手字など字や字で覚えていることは減る。など</li> </ul>	<b>生活習慣</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□運動習慣 <input checked="" type="checkbox"/> 十分な睡眠</li> <li>□健康的な食事</li> <li>□タバコを吸わない</li> </ul>
<b>レビー小体型</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□子供の姿や、生など素顔に見えないものが見えることがある。</li> <li>□寝がはっきりしている時と、ぼんやりしている時がある。</li> <li>□歩行が小刻みになることがあり転倒しやすい。など</li> </ul>	<b>ヘルスケア</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□心疾患の治療</li> <li>□血圧のコントロール</li> <li>□血糖値のコントロール</li> </ul>
<b>前頭側頭型</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□一つのものごとに固執しやすくなる。</li> <li>□本人なりの決まりを作ってしまう。</li> <li>□せむしや虫の姿などの多量に好むようになる。など</li> </ul>	<b>精神的・社会的に良い活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>□好奇心と興味を持ち続ける</li> <li>□新しいことを学ぶ</li> <li>□社会と繋がる <input checked="" type="checkbox"/> 集団活動に参加</li> </ul>

監修：大阪公立大学

### 初期の認知症の方への接し方の基本

「①驚かせない ②急がせない ③自尊心を傷つけない」の3つを心がけましょう。

<b>同じことを何度も繰り返したら...</b> 「これからどこに行くの?」「わたしのご飯まだ?」	<b>感情的になり、怒りだしたら...</b> 「早く病院よ!」「いま、支度してますよ!」
<b>行動の遅れがでなくなったら...</b> 「洗濯はどうしたいの?」「外出の準備ができていい...」	<b>先の見通しや段取りが難しくなるので、次の行動を一言で伝えるようにする。</b> 「洗濯かに入れてね!」「かばんに財布を入れてね!」
<b>時間・場所・人が分からなくなると...</b> 「一体、今は何時だろう...」「ここはどこだろう...」「あの人は誰だろう...」	<b>「時間」「場所」「人」の3つの情報を別々の声掛けで安心につながる。</b> 「12時だからお昼ごはんですね!」「集会所は賑やかですね!」「隣の山田さんが来たよ!」

### 出来事は忘れても感情は元気

新しい出来事を覚えることは苦手なのですが、その時に味わった感情は覚えていきます。「あたたかい」「心地よい」「人とながっている」感情が残るように接することが大切です。

監修：大阪公立大学

